

新規牧草用ラップフィルムの効果確認試験



JA北はるか

菊地 勇治



①ラッピングマシン(タカキタ製)



②ラップ設置時の様子



③試験品保管状況(6月26日撮影)

試験目的

牧草用輸入ラップフィルムの実用性確認試験

試験作物 及び品種

牧草

試験資材 及び数量(規格)

サイログラス(0.025mm×500cm×1800m) 緑 1本

慣行資材

国産ラップフィルム 白(ヤンマー)

栽培方法

収穫日

6月

資材使用期間

慣行区:6月上旬~9月下旬
試験区:6月上旬~9月下旬

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

慣行品は他社の白色(国産)を使用しており、同様の使用方法では裂けが発生してしまっ

た。フィルムの伸びについては慣行よりも強い印象があったが、慣行品よりも強度が若干弱く感じた。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

保管中・開封後ともに違いはなかった。

(3)資材の強度・耐久性・崩壊性について

前述のようにラッピング作業中は裂けが度々発生したため、スムーズに行うことができなかった。

ラッピングマシンとの相性が良くなかったのではないかとと思われる。

モニター感想

輸入品のラップフィルムを試験的に使用してみたが、テンションのかけ方なのか、機械との相性なのか判然としないが上手くラッピングすることができなかった。

今後もコストダウンのために輸入品の使用も検討していきたいが、今回の試験品の使用は難しい。

JA担当者の感想(立岡係長)

資材コストは年々上昇傾向にあり、資材コスト低減のためにも輸入品のラップフィルムはコストダウンにも繋がるため今後も推進していきたいが、伸びや糊の強さ等、様々な観点からラップマシンの相性を確認する必要がある。

今後の使用について

改良してほしい。